

令和4年度 介護関係者向け研修 分析・考察

テーマ：「食べるということ～おいしく食べ続けるために～」

目的：○嚥下機能を踏まえた注意点が分かる

○リハビリの実際が分かる

○医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る

【アンケート内の意見】

- ・状態観察の重要性、ケアの仕方など再確認することができ、自分のケアを振り返る機会となった
- ・おいしく食べていただけるよう個々の利用者の状態に合わせて、ケアしていきたい
- ・介助の際に立ちながら・座りながらによる違い、スプーンの一口量の違い、コップの大きさによる飲み込みやすさの違いなど実演に加え大変わかりやすい解説だった
- ・即実践に活かせると思った
- ・なかなか接する機会が無い職種の方の職能がわかり、普段では得られない知見を得ることができた

【分析・考察】

一つ目の目的である「嚥下を踏まえた注意点が分かる」については、食べる、飲むなどで困っている話を患者さんから聞いたときにはアドバイスしたいと思う、モデルを使って再現することでわかりやすく、誤嚥についての理解が深まった、改めて食事介護時の注意事項がわかった等、安全においしく食べ続け、食べるということは楽しい時間であり、生きがいの一つであること、単なる栄養補給ではなく、味わうことを考えるという事を意識していきたい、コップやスプーンの大きさを変えること、声掛けのタイミングで咽せないように飲みやすく、食べやすくすることができることを知った等、嚥下機能を踏まえた注意点がわかったのではないかと考える。

二つ目の「リハビリの実際が分かる」、三つ目の「医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る」については、言語聴覚士の講師による具体的でわかりやすい解説により、新たな知識も加わり明日からの介護現場で活かせるとの反応が多かった。

今後の希望する研修内容としては、認知症のある人へのコミュニケーションや対応法、薬の効果についてや聴覚・視覚・精神障がいに関することへの理解を深めたい、というように理学療法士や作業療法士による研修を希望する声が寄せられた。

介護関係者の希望する内容は、疾患や障がいを知り、処方薬の知識、対応法、リハビリテーション等といった医療に関する幅広い知識を備えたいということがわかった。

研修参加者は、ケアマネジャー、介護職員、薬剤師、セラピスト（リハビリスタッフ）の順に続いて、保健師、事務員の参加となっている。

介護関係者向けの研修として開催しており、参加者の多くが介護関係者であるという点において、介護関係者が医療に関する理解を深めるという、研修の目的に沿った取り組みができているのではないかと考える。

図1

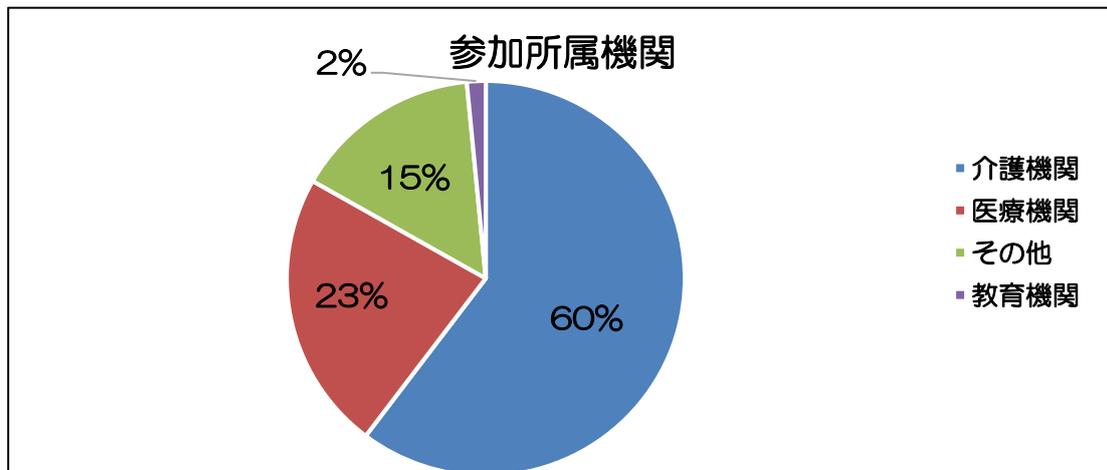


図2

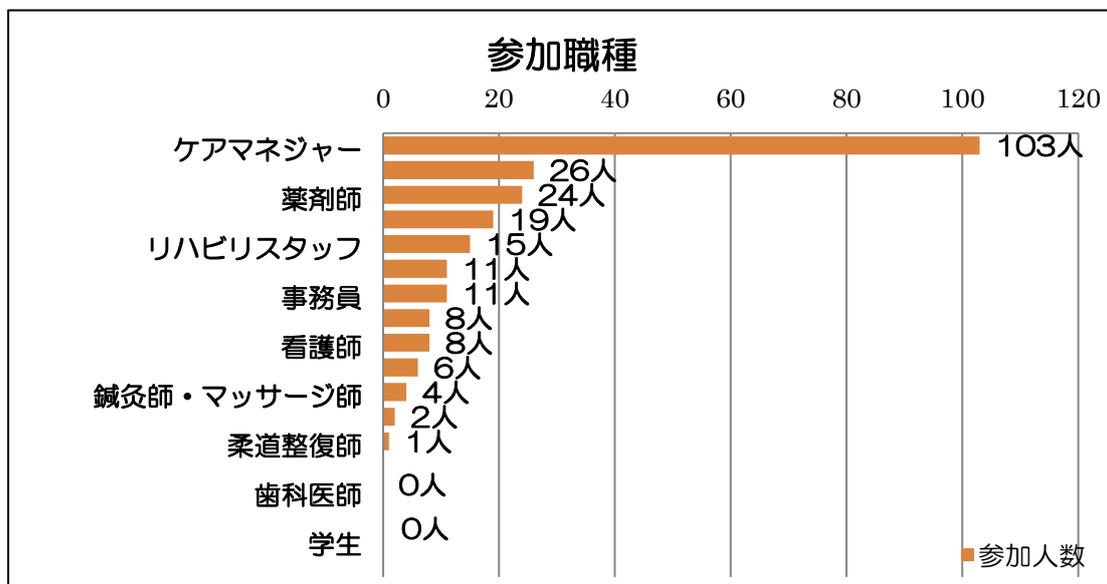


図3

